

市大病院情報誌



そよ風

Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています

Contents 2020年10月 第39号

- ▶ 高齢者の物忘れと運転による交通事故
- ▶ 糖尿病と骨粗しょう症
- ▶ 院内連携によるフットケアチームの取り組み
- ▶ 肺高血圧症という病気をご存知ですか？
- ▶ 乾癬外来・バイオ外来
- ▶ より良い採血室の運用をめざして
- ▶ 医師事務作業補助者のご紹介
- ▶ 地域医療連絡室のご紹介
- ▶ 認定看護師の活動について
- ▶ イベント情報



診療科紹介 内分泌・骨・リウマチ内科

高齢者の物忘れと運転による交通事故

昨今、高齢者の運転による交通事故が後を絶ちません。これを背景に道路交通法が改正され、高齢者は自動車運転免許の更新時に、認知症検査が必要となりました。しかしこうした手続きに不安を感じる高齢者も多いと思われます。

この運転免許更新の際の認知症検査では、記憶力を中心とした簡単な検査が行われます。これは、認知症の中で最も頻度の高いアルツハイマー病をスクリーニングするためです。しかし、この簡易検査だけでは正確な診断は下せないため、点数の低い高齢者は当神経内科のような専門外来での精密検査が義務づけられています。

当科では認知機能の評価、認知症の鑑別診断を適切に行い、運転免許更新手続きが適正に行われるよう支援しています。特に心理検査では、患者さんが緊張しすぎて本来の能力を発揮できないことのないように、時間をかけて丁寧に普段の生活の様子をお聞きし、自動車運転に関わる

空間の認知、方向、位置感覚まで詳細に評価します。また、視聴覚機能、筋力、手足のふらつき、歩行などに関する全身の脳神経についても評価し、運動に支障がないかを判断します。「最近物忘れがひどくて」と不安な方は、運転免許更新前に神経内科を受診することも可能です。

*受診にはかかりつけ医の紹介状が必要です。

(神経内科 伊藤義彰)



いくつ覚えられますか。裏返して思い出してみましょう。

糖尿病 と 骨粗しょう症

糖尿病は生活習慣病のひとつとして有名ですが、放置しておくと、網膜症により失明したり、知らないうちに腎機能が低下していき、透析や腎移植が必要になることがあります。また、心筋梗塞などの心血管病を合併し、死に至ることもあります。糖尿病が軽症の場合には自覚症状がないため、放置されていることが多く、特に注意が必要です。

さらに最近の研究では、糖尿病の患者さんは骨折が起きやすくなる、つまり骨粗しょう症を発症しやすくなることがわかってきました。糖尿病になると、骨の質が低下することにより、骨折が起きやすくなるのです。糖尿病も骨粗しょう症も自覚症状がないため、骨折して初めて骨粗しょう症だ、糖尿病だとわかることが多くあります。骨粗しょう症などの糖尿病が引き起こす症状を予防するためには、日頃より、生活習慣を正して、糖尿病をコントロールすることが重要です。

(内分泌・骨・リウマチ内科 今西康雄)



院内連携によるフットケアチームの取り組み

当院では糖尿病内科・形成外科・放射線科・循環器内科・心臓血管外科・膠原病内科・看護部によるフットケアチームを立ち上げて、末梢動脈性疾患や皮膚軟部組織感染症（いわゆる足の潰瘍〔かいよう〕や壊疽〔えそ〕）などの下肢疾患の治療を行っております。下肢疾患の治療には創部（傷の部分）の処置のみならず、下肢血流の評価や、血管内治療やバイパス術による血行再建、糖尿病・脂質異常症などの内科的管理、生活習慣の是正、退院後のフットケアなど様々な側面からのアプローチが必要です。当フットケアチームでは、定期的にカンファレンスを行うことで、それぞれの科が綿密に連携を取り合い、患者さんの病態に応じた治療を行っております。



定期的なカンファレンスで、各科が綿密に連携を取り合っています。

足に潰瘍ができた、足の色調が悪くなった、歩き出すと下肢の筋肉が痛くなり休みながらでないと歩けない（間歇性跛行〔かんけつせいはいこう〕）などの症状がありましたら主治医を通してご相談ください。

（フットケアチーム〔生活習慣病・糖尿病センター〕 越智章展）

肺高血圧症 という病気をご存知ですか？

高血圧はよく耳にしますが、肺高血圧症という病気をご存知ですか？ 肺高血圧症とは心臓から肺へ向かう血管（肺動脈）の高血圧であり、患者さんは少し動いただけで息切れや体のだるさを感じるようになります。肺高血圧症は膠原病や血栓症などが原因として潜んでいることもあります。原因不明であることも多い難病であり、重症の患者さんでは死に至ってしまうこともあります。しかしながら、早期に適切に診断と治療を行うことで予後を改善することができます。循環器内科では、心臓カテーテル検査を含めた多くの検査を可能な限り早期に行い、膠原病内科とも連携し病気の原因究明に努め、適切な治療と予後改善に結び付ける取り組みを行っております。

（循環器内科 山口智大、泉家康宏、葭山稔）



肺高血圧グループメンバー



肺高血圧症診断のための心臓カテーテル検査

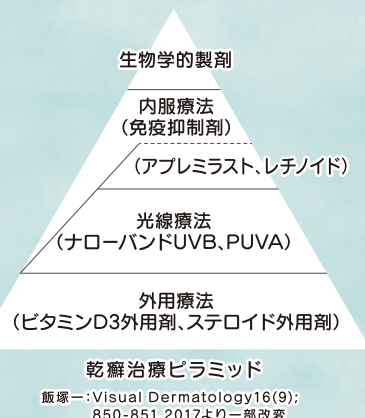
乾癬外来・バイオ外来

乾癬〔かんせん〕という皮膚の病気をご存知でしょうか？ 慢性の炎症性皮膚疾患（炎症性角化症）で、全身の皮膚に生じます。病型によりますが、尋常性乾癬では、頭皮、手足の伸側、腰臀部などにカサカサ（鱗屑〔りんせつ〕）がついて、赤く盛り上がった皮膚の症状が出ます。関節に腫れや痛みをとまなう乾癬（関節症性乾癬）もあり、日常生活に支障をきたすことがあります。日本人の発症率は0.1%程度で、比較的男性に多く、青年～中年期の発症が多いとされています。治療方法は症状の強さや範囲に応じて選ばれますが、塗り薬、飲み薬、紫外線療法、生物学的製剤などがあります。

近年、皮疹が重症の場合や関節症状を伴う場合には生物学的製剤という注射を使うことがあります。必ずしもすべての方に効くわけではなく、感染症や副作用に気をつけなければいけません、高い治療効果が期待できます。

当皮膚科では、月曜日午前に乾癬外来、金曜日午後バイオ（生物学的製剤）外来を設け、治療を行っております。乾癬でお悩みの方はご相談ください。

（皮膚科 中井 浩三）



より良い採血室の運用をめざして

当院3階23番採血室では、平日8時～16時の間に、400人～800人（平均600人）の外来患者さんの採血を行っています（*1）。採血患者数を曜日別に見てみると、水・金曜日が多く木曜日が少ない傾向にあります〔グラフAご参照〕。また、時間帯別に見てみると、8時30分～9時30分に多くの方が採血に来られています〔グラフBご参照〕。

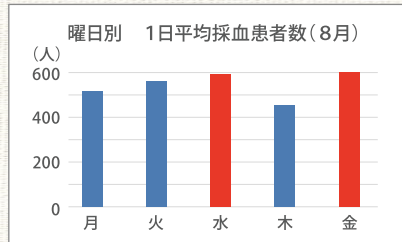
このような混雑を緩和するため、7月1日からは採血開始時刻を、これまでの8時30分から8時に変更しました。これにより、8時の受付開始とともに採血も開始できるようになり、平均待ち時間がこれまでは23分ほどあったのが、現在は5分～10分となり大幅に短縮することができました。

診察や患者さんのご都合もあるかと思われれますが、できるだけ混雑の少ない曜日や時間帯でのご来室をお勧めいたします。（*1）ただし15時～16時の間、一部の検査項目については採血できません。

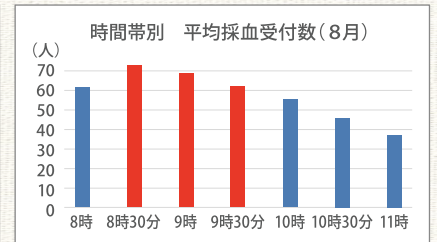
（中央臨床検査部）



採血室内では
“密”にならないよう、配慮しています。



〔グラフA〕



〔グラフB〕

医師事務作業補助者のご紹介

医師事務作業補助者とは、医師が診療や治療に専念できるよう、診療に関わる事務的業務を支援する職種です。当院ではドクターズアシスタント（DA）と呼び、平成28年より各病棟に配置し、平成31年より外来への配置を進めています。医師事務作業補助者は、入院診療計画書や同意書等書類の管理、診断書の作成補助、他院への紹介状の作成、診察や検査等の予約等の業務を、医師の指示のもとで、医師に代わって実施しています。現在、41名の医師事務作業補助者が医療チームの一員として活躍し、病院になくてはならない職種となっています。また、外来の患者さんから「診察の待ち時間が短くなった。」と称賛のご意見を頂くこともできました。今後も作成書類の正確性や迅速な対応ができるよう専門性を高め、医師の負担を軽減し医療の質向上、患者さんの満足度向上に貢献してまいります。

（医事運営課 丹後）



活躍中の医師事務作業補助者
（写真中央2名）



医師・看護師・事務職員が一緒になって
地域医療機関と連携を取っています。



患者さんに安心して受診いただけるよう、
尽力しています。

地域医療連絡室のご紹介

地域医療連絡室では、患者さんが特定機能病院で適切な医療を受けられるよう、医師・看護師・事務職員が一緒になって地域医療機関（病院や診療所など）と連携を取っています。

具体的には、地域医療機関からの診療情報提供書をもとに、患者さんの病状に最適な診療科を受診していただけるよう予約や調整を行っています。

なお、通常の外来予約だけでなくセカンドオピニオンの調整なども承っています。

患者さんが安心・安全に当院を受診していただけるようこれからも努力してまいります。

（患者総合支援センター）

診療科紹介

内分泌・骨・リウマチ内科



様々な科と連携しながら、トータルケアを心がけています。

当科では、さまざまな内分泌疾患、代謝性骨疾患、リウマチ性疾患の診療を担当しています。内分泌疾患としては、日常診療で見逃されやすい甲状腺・副甲状腺・副腎・下垂体疾患などの診断・治療を行っています。また、定期的に内分泌外科との合同症例カンファレンスを行い、外科的治療も含めた総合的な診療を行っています。代謝性骨疾患としては、副甲状腺機能亢進症、骨粗しょう症のような一般的な代謝性骨疾患のみならず、骨パジェット病、低リン血症性くる病・骨軟化症のような稀な疾患についても、最新の治療を行っています。リウマチ性疾患としては、関節リウマチをはじめとするリウマチ性疾患全般の診断・治療を行い、症例に応じて整形外科、皮膚科、リハビリテーション科と連携しながらトータルケアを図るよう心がけています。
(内分泌・骨・リウマチ内科 今西康雄)

シリーズ 第14回 ～認定看護師の活動について～

当院では、専門的な知識と視点を持つ認定看護師・専門看護師が協力しながら対応・活動しています。

今回は、特定看護師（特定行為研修修了生）のICUでの活動について、ご紹介します。

私たち“特定看護師”は、医師の判断を待たずに手順書により一定の診療の補助を行うことができ、ICUや救命救急センターなど重症部門で主に人工呼吸器管理を行っています。多忙な医師に代わり、常にベッドサイドにいる看護師が診療の補助を行うことで、細やかな観察、機器や薬剤のこまめな調整ができ、患者さんの状態に合わせてタイムリーな医療を提供することができます。

ICUでは、外科手術や重篤な内科疾患により全身に影響が及び、呼吸状態や血圧が大きく変動した患者さんの全身状態が安定するまで人工呼吸器を装着しています。人工呼吸器を装着していると終日ベッド上で過ごすことになるため筋力が落ち、肺炎になりやすく入院前の日常生活を送ることも困難になることがあります。そのため看護ケアを実践しながら全身状態の安定を見極め、人工呼吸器の設定や鎮静薬の投与量を調整して、人工呼吸器装着時間を短く、より速やかな回復過程をたどれるよう日々努めています。

(特定看護師 ICU 川端祐子)



患者さんの状態を細やかに観察し、機器や薬剤の調整を行います。

認定看護師とは、公益社団法人日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。
※公益社団法人日本看護協会ホームページから引用 <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn>

イベント情報 

新型コロナウイルス感染症の影響のため、只今イベント開催のめどが立っておりません。
イベント内容や開催の有無につきましては、病院ホームページをご確認くださいようお願い申し上げます。



【病院ホームページ 院内イベント情報】

ホーム < 相談窓口 < 患者総合支援センター < 院内イベント情報
<http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/pac/event.shtml>

発行 / 大阪市立大学医学部附属病院

<http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/>

所在地：〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
電話：(06) 6645-2121 (代表)

初診受付時間：午前8時45分～午前10時30分
休診日：土・日・祝日、12月29日～1月3日